

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身のkikuさんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新—

「歴史に学ぶ」

西日本豪雨により、被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。愛南町での被害は他で比べるよりは小さく、日常を取り戻しているとのこと、安心しています。

あたしの携帯にもあの日、朝から愛南町の大雨警報や避難勧告の情報が入り、すぐに両親に電話した。東京で得られる情報はわずがやっただけにわからんことも多く、その分心配や不安心は募った。受話器の向こうから、のんびりとした雰囲気は伝わりホッとしたと同時に、危機感のなさに驚いた。友達のご両親も「これくらい大丈夫」という感じだったらしく、連絡を取り合いながらやきもきした。

大きな被害に遭われた地区では“まさかこんなことになるとは”と、多くの方が口にします。その“まさか”はどこにでも起こりうる。誰にでも起こりうる。自分の経験だけでは想像で済んだことが起こりうる。こんな言葉がある。“愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ”。自分の経験だけでなく、他人の失敗や経験からも学び、ということ。あたしたちが住む日本は7年前、未曾有の大災害を経験した。地震と津波。恐ろしいのはそれだけじゃない。今回のことで改めて知ることができたはず。

周りが避難してないからまだ大丈夫。誰かがこう言ってるから大丈夫。今まで大丈夫だったから、大丈夫。その気持ちが“まさか”を生む。自分の命は自分でしか守れん。“その時”に備えて災害グッズや意識の見直しを。切に願います。
(テノヒラkiku)

あいなん物産探訪 その②⑤

「完全養殖クロマグロ」

極洋フィードワンマリン株式会社

代表取締役 林 ^{たいし} 泰史さん

愛南町沖でクロマグロの完全養殖が行われている。極洋フィードワンマリン株式会社では、平成24年11月から愛南町で養殖を開始。親魚から受精卵を収集し、脇本の陸上ふ化場で5cmほどの稚魚に成長させた後、洋上の生け簀に移して3~4年かけて養殖している。

「四国沖は黒潮が流れ込み、常時新鮮な潮が流れ込んでくる。水温もクロマグロの養殖に適しており良い漁場」と話すのは林 ^{たいし} 泰史さん。現在は50~60kgの魚体を中心に、関東・関西など各方面に通年出荷している。「脂がほどよく

乗り、赤い色目がはっきり出るように育てるのがうちの基本」とこだわりを見せる。



▲「養殖だけど天然魚に近い状態で出荷したい」と話す林さん。



愛媛CATVの動画はこちらから



昨年11月に出荷開始したばかりだが、「生産効率を上げ、完全養殖クロマグロが愛南町の一つの産業になるくらいのつもりで頑張りたい」と林さんが力を込める。